

江美城を探る会

「江美城を探る会」は2021年の3月に江美城の歴史・遺構について研修を重ね、町内外に広報して、次世代に江美城の歴史を継承することを目的に設立しました。

会員の年齢層は20代～80代まで幅広く30名です。



設立初年度に行った活動は、以下のとおりです。

- ① 学習活動・・・月1回の学習講座やフォロー講座、関連地域のフィールドワークの開催
- ② 整備活動・・・城跡の環境整備活動。八幡丸跡、西ノ丸跡、本丸跡周辺の草刈り並びに、水仙の球根植え、県及び江府町の支援による江尾駅から城跡までの案内ボード、掲示板の設置。
- ③ 情報発信活動・・・「江美城周辺ウォーキングマップ」を作成し、それを基に町民や小学生を対象にガイドを実施。Twitter名「江美☆金箔」によって学習講座内容などを発信。NPO法人こうふのたよりが月1回発行している情報誌に「江美城新聞」を掲載し広報。
- ④ 提言活動・・・昨年9月、江府町に要望書「江美城跡の現地安全対策のための修繕工事について」を提出。江美城へのアプローチロード修繕、景観支障木伐採等を行政に対して要望した。

今年度の活動

- ① 学習活動・・・別紙のとおり
(右写真は11月11日の研修)
- ② 整備活動・・・設立年から活動継続
- ③ 情報発信活動・・・設立年から活動継続
- ④ 提言活動・・・10月、江府町に要望書「江美城跡の整備等について」を提出。金箔瓦のレプリカ作成、転落防止措置、案内掲示看板の修正、資料館開館日数の増加等を行政に対して要望した。
- ⑤ その他・・・江府町文化祭での成果物展示、NHK鳥取放送局の情報番組「いろドリ」に出演



(別紙)

2023年度(令和5年度)講座予定

4月16日(日) (第3日曜日)	一町報—S46年9/10発行 井上中山香・作 「江美十七夜物語」解説Ⅰ 講師・仲田先生	10月8日(日) (第2日曜日)	江美城本丸跡発掘にあたって・・・ 元・米子市埋蔵文化財センター長 現・山陰歴史館館長 講師・小原先生
5月21日(日) (第3日曜日)	=同じく= 「江美十七夜物語」解説Ⅱ 講師・仲田先生	11月11日(土) (第2土曜日)	尾高城跡 上淀庵寺跡 (フィールドワーク) ガイド・仲田先生
6月11日(日) (第3日曜日)	宮市神社に纏わる伝 (宮市地区フィールドワーク) 講師・橋谷、仲田先生	12月10日(日) (第2日曜日)	元・県公文書館編纂室長 現・県立鳥取東高校教諭 講師・岡村吉彦先生
7月9日(日) (第2日曜日)	江美城クイズ初級編 編集・まとめ 加持谷、下垣、光隆 (ad・仲田先生)	1月21日(日) (第3日曜日)	板谷生記念館館長 講師・中尾先生
8月6日(日) (第1日曜日)	お市さん五輪塔参り 蜂塚右衛門尉五輪塔参り (準備・供え用花、水等)	2月11日(日) (第2日曜日)	講師・伊田先生
9月10日(日) (第2日曜日)	米子城跡 (フィールドワーク) ガイド・仲田先生	3月10日(日) (第2日曜日)	「Talk Over Coffee」 江美城クイズ制作・中級編 その他報告等 (ad・仲田先生)

今後の活動

- ① 学習活動・・・月1回の講座を継続し、その質を高める。
- ② 整備活動・・・江美城跡に人々が安心して集えるよう、周辺を整備を行政と協同しながら進めていく。
- ③ 情報発信活動・・・観光協会と連携を取りながら、ガイド養成に対処出来るようガイド力を高める。
- ④ 次世代育成活動・・・学生(生徒)の方にも、江美城の歴史に興味を持ってもらう事の出来る発信を考えていく。

江美城は私たちふるさとの財産の一つであり、広く江府町の歴史・文化を学ぶ事のできる貴重な教材でも考えています。



蜂塚氏と関連年表 (I)

令和5年10月 江美城探索会制作

江美城周辺の出来事	(年)	周辺他国の情勢
	1340	山名氏伯耆守護 師義→義幸 (日野知行・俣野)
蜂塚氏・初代安房守・江美城草創 二代・三河守 ~ 三代・丹波守	1484	
蜂塚氏は既に尼子氏の配下 開田とタタラ操業により四代続く蜂塚氏	1524	尼子氏伯耆へ侵略 (大永五月崩れと云われている)
四代目・蜂塚右衛門尉・王子権現に棟札挙げる (王子権現=江美神社の前身) ~既に江尾十七夜の原型は始まると伝わる~	1536	
	1541	月山富田城城主・尼子経久83歳で没→孫の晴久へ
	1554	尼子氏内戦・新宮党事件~尼子氏を弱体化するための毛利の策略とも言われてるが?? 諸説… (小説『天の蜚』の書き出しにも登場)
日野衆・尼子氏の援軍として大森銀山、石見へ	1558	尼子氏・大森銀山を手中に
	1560	城主・晴久 46歳没→義久 (尼子氏弱体化していく)
蜂塚氏・一時期毛利方へ寝返るも本城常光 (石見・山吹城主) 暗殺により再度尼子へ	1562	毛利 (吉川元春) 氏・富田城への攻防始まる
※江美城落城・軍勢 200~300 と想定 蜂塚右衛門尉・自刃 (将兵も投降一切許されず)	1564 (5)	毛利方総大将・杉原盛重 (神辺・尾高城主) 援軍あわせて軍勢 3,000 が江美城を1日足らずで攻め落とす
	1566	月山富田城 (尼子義久) も遂に開城となる
	1571	山中幸盛 (鹿之助) は勝久を尼子再興軍の総大将として戦うも 1578年 (34歳) 阿井の渡りで斬殺される
※落城後は毛利方・吉川広家城番を差し向ける	1579	

<江美神社所蔵の棟札>



<模範天守・資料館>



<194年3月江尾駅開業 100周年>



<岡山城内展示物>





蜂塚氏と関連年表 (II)

令和5年10月 江美城を探る会制作

江尾周辺の出来事	(年)	周辺・及び他国の出来事
	1582	本能寺の変 (織田信長・明智光秀に討たれる)
*発掘調査により*年号は定かではないが、広家の命により江美城は改築されていると思われる	1598	豊臣秀吉 亡
*1997年発掘調査により金箔瓦片出土 使用年代不明の為・諸説あり?...		1600年 関ヶ原の戦い 後、吉川広家⇒岩国へ ・中村一忠⇒米子へ
中村氏・城番を江美城へ差し向ける 城番には林文太夫 或は矢野正倫など *発掘調査により*年号は定かではないが、中村氏の時代にも江美城は改築されていると思われる 中村家家老・横田内膳の裁許状あり (資料館)	1601	中村一忠・米子城完成と共に尾高城より入城 1603年執政家老横田内膳・一忠に謀殺さる
	1609	中村一忠 20才で急死・中村家断絶
黒坂・鏡山城へ伊勢国より関一政 (後に改易なる)	1610	加藤貞泰 (美濃国・黒野城主より) 米子城主へ
一国一城令により城は取り壊される	1615	徳川幕府により全国に一国一城令
江美城周辺の町は、日野往来と作州街道の交点にあり古くは大山参り、大山詣、更には豪園 (円) 僧上が大山領として幕府より3千石を安堵 (1610年) した、江戸時代には牛馬市などで人の往来が盛んになり宿場町として賑わう =1632年以降・荒尾氏家臣河村氏・清濁寺を江尾～米子に移す=		
東祥寺・開祖 =更に1673年周辺寺院と合併=	1667	黄檗宗県内に33ヶ所 (1661年・隠元聖人・中国より京都・宇治万福寺へ)
山奉行・吉川右平太 (大河原) の発案牛馬札発行に (西楽院に願い出る) より、更に大山は牛馬市としても栄える (江戸中期～)	1726 ～	牛馬札の取り分は大山寺:吉川右平太=7:3とした市は年1回～6回に2～6万頭に数万人以上の人出、地元を初め出雲、美作、備前、備中、備後より
江尾神社は (江尾村、久連村、貝田村、小江尾など 8社合祀) ⇒ 江美神社と改称 (大正5年)	1915	
伯備線 “江尾駅” 開業 = 大正12年3月	1922	～山陰日日新聞～翌日の広告紙面には、銀行、旅館、妓楼多数記載 (昨年100周年の祝典あり)
	1931	国立公園法により牛馬市廃止 (昭和6年～)

※江美城跡周辺には遺構も多数残されており、近年特に城マニアの来訪者に喜ばれています。

※400年以上続く夏の大イベント“江尾十七夜”祭りは県内有数の祭りで、宵に踊られている“こだいち踊り”は県の無形文化財に指定されています。この祭り現代では蜂塚氏一族の遺徳を偲ぶ供養としても大切に受け継がれています。

参考引用資料 : 江府町史・米子市発行米子城関係資料・しろたん

城跡巡り in 江府町

江美城を探る会



- ① 江美城跡
城ノ上
- ② 鬼丸跡(宇佐丸跡)
奥市
- ③ 城野尾跡
白尾
- ④ 银杏ノ段跡
船谷
- ⑤ 土居城跡
尾之上原
- ⑥ イケ城跡
宮市
- ⑦ 学塔
宮市





江美城

開田と鉄山

蜂塚氏の居城

江美城を探る会